

核兵器はいらない 世界にアピール!

NPT代表派遣報告

2010年4月30日～5月7日、全世界に向けて核兵器廃絶に向けた願い「わたしたちの訴えとメッセージ」を2010年NPT再検討会議に届けるため、各地の生協から105名、日本被団協(※下記参照)から52名、合計157名がニューヨークへと向かいました。生協代表団の一員として、よどがわ生協からは理事の佐藤里香さん、宗ひろみさん、平和グループの山田サキ子さんの3名が参加しました。また全国生協の組合員・役員から寄せられた被爆者支援募金が、よどがわ生協では49万5200円、全国では目標金額の1千万円を突破しました。みなさま、ご協力ありがとうございました。



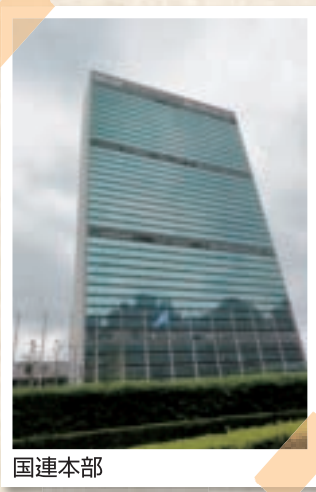
前列3名(左前から佐藤理事・平和グループ山田さん・宗理事)が代表団



4月30日(金)

いよいよ現地「ニューヨークへ」

20時30分にニューヨーク到着。宿泊ホテルから徒歩10分のところに国連本部があります。長い一日の疲れを癒すため到着後就寝。



国連本部

5月1日(土) 合同結団式で気持ちを一つに

新緑の美しいニューヨークは快晴。この日は、被団協代表団とはじめて全員での顔合わせ「合同結団式」を行いました。

まず、日本被団協代表団の坪井直樹団長と生協代表団の芳賀唯史団長から挨拶があり、その後被爆者の方として生協からの決意表明が行われ、核兵器のない世界平和の実現に向かって一丸となって活動することを確認しました。結団式には、日本からのマスコミや現地駐在の記者など計8社の取材がありました。午後からは、被爆者と生協代表団の混合で14のグループに分かれ、今後のグループ活動内容の確認を行いました。

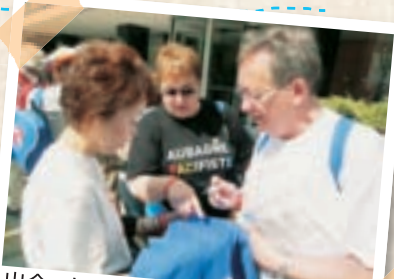
5月2日(日) 青いハッピを着て 平和パレードに参加

タイムズスクエア近郊にて、初夏のような蒸し暑さと強い日差しの中、核兵器廃絶のため、NGO共同集会が開催され、国連本部まで平和パレードを行いました。



よどがわの青いハッピを着て行進

パレードには世界各国から約2万人が参加し、日本からも多くの方が参加されました。みんなそれぞれの想いが詰まった格好で、平和へのメッセージを書いてつない



出会った人にハッピにメッセージを

「No More Hiroshima! No More Nagasaki!」と、国は違っても平和への想いは同じだと実感しながら国連本部まで歩いてアピールしました。この日までに集まった日本からの署名は690万筆を超え、よどがわからは1万3766筆の署名を届けました。



各国熱いアピールが繰り広げられました



日本からのたくさんの署名と折り鶴

5月3日(月) グレースチャータースクールで 中学生に核兵器の恐ろしさを語る

前日は真夏のような天候だったのが、3日は雨。昨日のパレードの時に降らなくてよかったと同胸をなでおろしました。代表団の活動に、被爆者の方のニューヨークでの被爆証言活動を支え、多くの人々に被爆の真相を伝えるという大きな役割があります。代表団が滞在している5月7日までに、ニューヨーク市内内外で合計35回行われました。



丁寧な歓迎と熱意に感動しました



活発な質疑に真剣さが伝わりました

この日、よどがわは私立グレースチャータースクールの中学1・2年生約70名を対象に被爆者である廣中さんによる原爆体験者の証言を行いました。通訳はこのスクールに通う日本人のお父さんや、スクールを卒業した高校生の女の子がしてくれました。みなさん真剣な表情で証言を聞き、中には涙する姿も見られました。また被爆の影響はありますか?などの質問もあり、被爆者の証言を受けとめている様子が伝わりました。

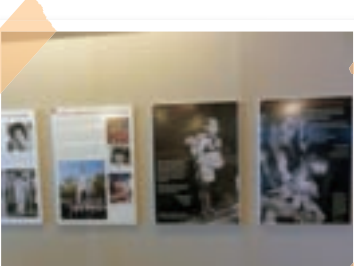
5月4日(火)

国連本部の原爆展にて 核兵器根絶を訴える

原爆展で見学している人に、被爆者3名と通訳ボランティアの方3名が参加し、日本語と英語で証言を行いました。原爆展は、50枚のパネルを使い、広島・長崎の原爆被害以外に、ビキニ環礁水爆実験による第五福竜丸やマーシャル列島の被爆、アメリカ・ネバダ州やカザフスタンのセミパラチンスク(旧ソ連)の核実験場のひとつ)での核実験による被害、チェルノブイリ原子力発電所事故の問題など、世界中の核の被害を訴えるものになっていました。その他に、核の問題を解決するために世界でどのような活動があったのかを報告する展示もありました。



証言を聞こうと集まってくる人たち



包み隠さず悲惨さを訴える写真

5月5日(水)

日本人学校「ニューヨーク育英学園」 にて平和の祈りを伝える

いよいよ活動最終日。よどがわ派遣団は、今年創立30周年を迎えるニューヨーク育英学園(日本人学校)での証言活動を行いました。この学校では日米両国の文化を取り入れた教育を行

NPT代表派遣団に参加して...

今回ニューヨークで被爆者の方々と5日間共に行動し、ご高齢にもかかわらず、世界中の人々に向かって核兵器廃絶を必死に訴える姿を見て、戦争の残した悲しければと改めて感じ、帰国しました。国連での原爆展に訪れた世界各国の人々、ニューヨークの学校の子とも達も被爆者の証言を聞き、戦争はダメだ!核兵器廃絶を!と感じたことでしょう。世界で唯一の被爆国である日本から、核兵器廃絶に向かってもっと声をあげましょう。

一人ひとりが今できることを考え、行動できるような声をあげていきたいと思います。そして、平和な世界を子どもたちに残したいです。

〈理事〉佐藤 里香・〈理事〉宗 ひろみ・平和グループ 山田 サキ子

5月6日(木)

被団協と生協メンバーが 一丸となった5日間。 あらためて感謝

この日、NPT再検討会議の成否を握る各国政府代表に生協代表団事務局から、ニューヨークランド、マレーシア、ロシア、ブラジル、日本の代表に、全国の組合員さんからのメッセージカード4300名分を渡しました。夕方、宿泊しているホテルにて、解団式を兼ねたまとめの会議が行われました。各グループに分かれて食事をしながら、5日間をそれぞれ振り返りました。被団協と生協メンバーからそれぞれ3人が、「それぞれが支えあって、協力し合ったからこそ活動だった」「核廃絶のための勇気と強い意志によってがんばれた」と、感想を発表しました。



証言に聞き入る子どもたち

5月7日(金)

現地ですごした6日間の活動をふりかえり、それぞれの思い、決意を胸に全員無事帰国しました。



青いハッピには平和へのメッセージが



※日本被団協とは

47都道府県のそれぞれにある被爆者(広島・長崎で原爆の被害を受けた被害者の生存者)の団体の協議会で、被爆者の唯一の全国組織です。NPT再検討会議には「ふたたび被爆者をつくるな」核兵器をなくせ」と訴えるために、大代表団を派遣しました。

核不拡散条約(NPT)再検討会議とは

核不拡散条約(Nuclear Non-Proliferation Treaty, 略称:NPT)は、核兵器廃絶を主張する政府および核兵器廃絶運動団体によって核兵器廃絶を目的として制定されました。アメリカ合衆国、ロシア、イギリス、フランス、中国の5カ国以外の核兵器の保有を禁止する条約です。(この条約の適用上、「核兵器国」とは、1967年1月1日以前に、核兵器その他の核爆発装置を製造し、かつ爆発させた国をいいます。)1970年3月5日に発効されました。締約国は190カ国、非締約国はインド、パキスタン、イスラエルの3カ国です。25年間の期限付きで導入されたため、発効から25年目にあたる1995年にNPT再検討会議を開催し、条約の無条件、無期限延長が決定されました。そして、5年ごとに「再検討会議」を開催することを決定し、条約がきちんと守られているかチェックしていくことになりました。2010年度のNPT再検討会議は、2010年5月3日～5月28日の間に、アメリカ・ニューヨーク市国連本部にて190カ国の参加で行われました。